

# 英語

○ 調 査 問 題

【聞くこと】

2 これから放送される(1)～(4)の英語の話しかけを聞いて、それに対する答えとして最も適切なものを下のア～エのうちからそれぞれ1つずつ選びなさい。

(3) <母親が娘に>

ア At the park.

イ Yes, I did.

ウ I have some eggs.

エ I didn't like it.

(放送文) Where did you have lunch?

○ 調査問題の趣旨・内容

「会話文の応答として適切なものを選択する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題の概要】 疑問詞 Where~?に対する適切な応答文を選択する。

【作成の趣旨】 この問題は、疑問詞を含む質問に対し、適切な応答を選ぶことができるかどうかをみる問題である。聞き取るポイントは、質問の文頭の語に注意し、質問の意味を正しく理解することである。疑問詞 where を聞き取り、意味を理解した上で、場所を表す応答を選ぶことができるかどうかを問うために、この問題を作成した。

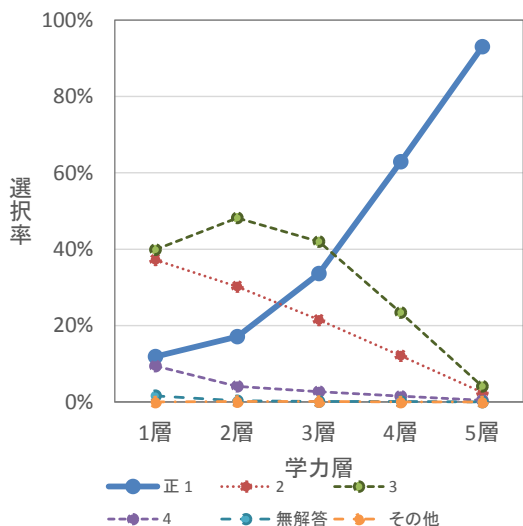
○ 誤 答 分 析

解答類型	①正答 アを選択	2 イを選択	3 ウを選択	4 エを選択	無解答	その他
出題のねらい						
会話文の応答として適切なもの を選択することができる。	45.7%	19.9%	30.4%	3.5%	0.4%	0%

正答を導くには、①疑問詞 where の意味を理解し、②場所を表す応答を選ぶことが要求される。誤答を選んだ生徒は、①と②の両方、またはどちらかでつまずき、聞き取ることができた他の単語に反応してしまったと考えられる。②でつまずいた生徒は前置詞 at ~が場所を表すということ、また主語と動詞のない前置詞句が質問の応答になりうるということが理解できていなかったと考えられる。

選択肢	選択肢の分析
ア At the park.	正答
イ Yes, I did.	疑問詞以降の Did you have lunch? に対する答えなので、疑問詞が聞き取れていない。
ウ I have some eggs.	Where did you have lunch? ではなく What did you have lunch? と聞き取った可能性が高い。もしくは、lunch という単語に反応して、唯一食べ物が入っているものを選んだと考えられる。
エ I didn't like it.	イと同じく、疑問詞以降の Did you have lunch? に対する答えのように見えるが、like という動詞が質問に入っていないので did you ~の部分のみに反応している。

## ○ G - P 分析



- 5層の生徒の正答率は高いが1～3層の生徒では正答率40%以下と低くなっている。4層の生徒でも60%程度の正答率である。
- 1～3層の生徒では、40%以上の生徒が類型3(ウ)を選んでいる。質問のlunchという単語に反応して食べ物を選んでいると考えられる。このことから、学力層が低い生徒は、単語レベルでの聞き取りはできても、文全体の意味を理解することができないということがわかる。
- 類型2を選んだ生徒は学力層が低いほど多い。これらの生徒は、質問文の始めの語に注意して聞き取る力が身に付いていないことがうかがえる。

## ○ 指導上の改善ポイント

補充

### 文頭の単語を正確に聞き取る

- ・ 英語の質問では文の最初に一番聞きたいことを述べるということを指導し、文頭の語に意識を集中して聞く習慣をつけさせる。
- ・ 聞き取った文頭の単語はメモを取るよう指導する。  
(例) Where/Who/Do/Did~ など(カタカナや「どこ」「だれ」などの日本語でもよい)
- ・ 習慣化させるプロセスとして、生徒がメモを取れているか見取りを行ったり、教師がメモの取り方を例示したりして生徒の意識を高める。

### 疑問詞の意味理解と応答の練習

- ・ 英語学習のなるべく早い段階で疑問詞の意味を確認させ、それらを用いた疑問文と応答の仕方を、言語活動の繰り返しにより定着させる。

(例1) 疑問詞マッチングゲーム(ウォーミングアップゲーム)

where	...	どこ	...	at the park	from Canada
who	...	だれ	...	my sister	with Ken
when	...	いつ	...	on Monday	last night

- ① カードを配り、疑問詞とその意味を生徒に組み合わせさせる。
- ② 意味が定着したら、応答の仕方についても行き、前置詞の使い方などを定着させる。段階的にカードの種類を増やしながら繰り返し行う。

(例2) Quick Q&A 質問の始めの疑問詞に注意して会話させる。


疑問詞	質問	答え方
what	What ○○ do you like?	I like ○○.
how	How is the weather?	It's sunny.
who	Who is your favorite ○○?	My favorite ○○ is ----.
where	Where are you from?	I'm from ----.
when	When is your birthday?	My birthday is ----.
whose	Whose ○○ is this?	It's mine.
which	Which do you like, A or B?	I like ----.

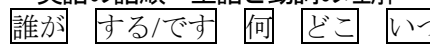
### 単語レベルの聞き取りから 文レベルの聞き取りへ

- ・ **小学校における既習事項の活用**  
生徒は小学校外国語活動を通し、食べ物や生活用品などたくさんの英語を学習している。そのことを踏まえ、小学校で既習の語彙については、文の構成要素として聞き取らせ、英語を日本語を介さずにそのまま理解させる習慣を身に付けさせたい。

- ・ **一般動詞の意味理解**  
小学校外国語活動では、文字指導を行わないため、動作についても音声や実際の動作、絵などにより学習を行っている。そのことを踏まえ、基本的な一般動詞の意味は、実際の動作や絵などを用いて導入するとより効果的である。

その上で、その一般動詞を用いた英文を作らせるなどして、「主語+動詞」の語順を定着させるとよい。

(例) I clean my room.  clean

- ・ **英語の語順…主語と動詞の理解**  
  
などの英語の基本的な語順理解を意識した活動を行う。

(例) 教科書の英語語順読み(音読)  
教師: 何を/ あなたはする?/ 日曜日に  
生徒: What/ do you do/ on Sundays?  
教師: 私は/ 読む/ 漫画を/ 日曜日に  
生徒: I/ read/ comics/ on Sundays.

○ 調 査 問 題

【読むこと】

4 次の英文(2)の( )に入れる単語として最も適切なものを、下のア～エのうちから1つ選びなさい。

(2) A: What ( ) do you like?

B: I like spring.

ア season

イ number

ウ friend

エ house

○ 調査問題の趣旨・内容

「基本的な語彙や文法・語法についての知識」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 対話文から空欄に入る適切な名詞を選択する。

【作成の趣旨】 この問題は対話文でBの「春が好きです」という答えを読んで、Aが「どの季節が好きか」という質問をするために適切な名詞を選択することができるかどうかを見る問題である。この問題のポイントは、spring が「春」、season が「季節」という基本的な語彙についての知識が身に付いているかどうかである。

「疑問詞+名詞～？」の文構造については、生徒は小学校外国語活動でチャンツやゲームなどにより、体験的に理解し慣れ親しんでいる。spring や season は日常生活でも聞いたことのある外来語であると考えられるため、英語の音と文字がつながっているかどうかポイントとなる。

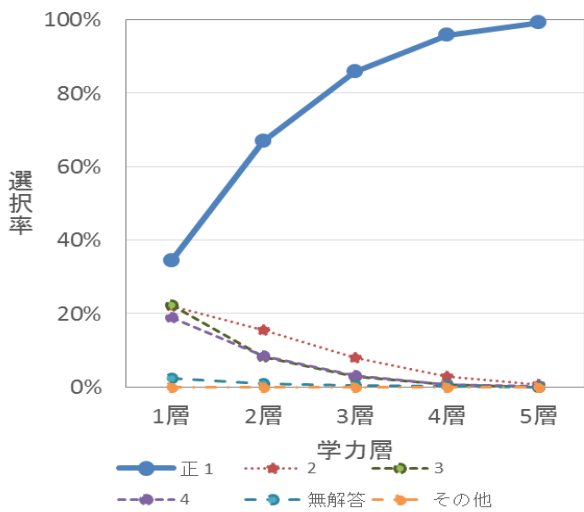
○ 誤 答 分 析

出題のねらい	解答類型	①正答 アを選択	2 イを選択	3 ウを選択	4 エを選択	無解答	その他
基本的な語彙や文法・語法についての知識」が身に付いている		77.5%	9.4%	6.5%	5.9%	0.7%	0%

spring「春」、season「季節」について、音と文字のつながりと語の意味を理解している必要がある。  
誤答の選択率は選択肢イ number の選択率がやや高くなっているため、今まで聞いたことのある慣れ親しんだものを選択したと考えられる。

選択肢	選択肢の分析
ア season	正答
イ number	Bの答えを読んで、春＝季節を導く問題。 springの意味と質問の意図「何の <input type="text"/> が好きですか。」を理解しなければならない。
ウ friend	
エ house	

## ○ G - P 分析



- 正答率が77.5%の問題である。
- 1層では類型2～4の誤答率がほとんど変わらないことから、どの答えを選んでよいか分らなかった生徒が一定割合いると考えられる。
- 2～4層では、類型2(イ) numberの誤答率がやや高くなっており、今まで聞いたことのある慣れ親しんだ選択肢を選んだと考えられる。
- 5層では正答率が99%を超えほとんど誤答を選んでいない。
- 2層の生徒でも60%以上正解できる問題である。1層の生徒を引き上げることで、より正答率が上がると考えられる。

## ○ 指導上の改善ポイント

### 小学校外国語活動との円滑な接続

小学校外国語活動では、特に音声面を中心として、コミュニケーション能力の素地が育成されている。そこで、小学校外国語活動で慣れ親しんだ「聞く」「話す」活動と、中学校で加わる「読む」「書く」活動への円滑な接続ができるようにすること大切である。

音声を中心とした活動から英語の音と文字のつながりを無理なくおさえられるよう、小学校外国語活動と中学校英語を生徒の中でつなげる指導が必要となる。

中学校においては、小学校外国語活動段階での学習内容を確認しておくのはもちろんのこと、どのような活動を中心に授業を行っていたのかを把握し、特に英語学習の開始段階では生徒が抵抗感なく中学校の学習に臨めるような工夫に努めたい。

### 【参考】小学校外国語活動での取扱い「疑問詞+名詞～？」

Hi, friends! 1  
Lesson 3 "How many ~?"  
Lesson 5 "What ~ do you like?"

Hi, friends! 2  
Lesson 3 "What country is this?"  
Lesson 6 "What time is it?"  
"What time do you ~?"

音声を中心に、小学校で既に学習している。

### 英語の音と文字のつながりを大切に指導

#### 小学校外国語活動を意識した授業の組み立て

小学校外国語活動により、生徒は英語を聞くことに対する抵抗が少ないことが期待できる。

そこで、「聞くこと」から「話すこと」への授業展開を基本とし、聞く、話すだけでは理解が十分でない表現を、文字を使用して確認し練習させる。

#### 音と文字のつながり意識した活動例

- ・指で文字(本文)をなぞりながら Listening
- ・Bingo Game ・音読 ・Dictation
- ※繰り返し音読させるための読み方の工夫
- ・Read & Look Up ・Phrase Reading など

#### 小学校との接続を踏まえた教材や指導法の継続的使用

外国語活動で使った絵カードなどの教材、学習した単語や表現、行っていた活動などを効果的に中学校の英語の授業にも取り入れ、その上で文字指導を行うことで小学校との円滑な接続を図る。

#### 小学校外国語活動で慣れ親しんでいる活動例

- ・ポインティングゲーム ・キーワードゲーム
- ・スリーヒントクイズ ・ミッシングゲーム
- ・ステレオゲーム ・メモリーゲーム
- ・ラッキーカードゲーム ・カード取りゲーム
- ・ジュエスチャークイズ ・チェーンゲーム
- ※ 校区の小学校と連携し情報共有しておく。

○ 調査問題

【聞くこと】

2 これから放送される (1) ~ (4) の英語の話しかけを聞いて、それに対する答えとして最も適切なものを下のア~エのうちからそれぞれ1つ選びなさい。

(4) <母親が家に帰ってきた息子に>

- ア It's over there.
- イ This book is great.
- ウ It was big and clean.
- エ I will read this book.

(放送文) How was the new library?

○ 調査問題の趣旨・内容

「会話文の応答として適切なものを選択する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 疑問詞を用いた疑問文に対する適切な応答文を選択する。

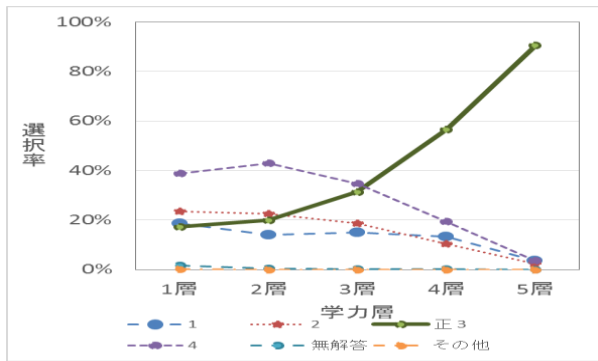
【作成の趣旨】 この問題は会話を聞いてその応答として適切なものを選択することができるかどうかをみる問題である。この問題のポイントは家に帰ってきた息子に母親が疑問詞 How から始まる質問で「どうだったか」と感想を求められる点であり、文頭の疑問詞をしっかり聞き取り、適切に答える力が求められる。

○ 誤答分析

出題のねらい	解答類型	1	2	③正答	4	無解答	その他
会話文の応答として適切なものを選択することができる		アを選択	イを選択	ウを選択	エを選択		
		12.6%	15.2%	44.2%	27.4%	0.5%	0.0%

大問2 (4) <リスニング問題 - 質問に対する適切な答えを選ぶ>

選択肢	選択肢の分析
ア It's over there.	質問文の最後の new library を受けて、it を主語にしている点では、代名詞を用いて文をつないでいく知識はあると考えられるが、疑問詞 how に対する適切な答えではない。また、時制も正しく聞き取れていない。
イ This book is great.	~is great. と感想を述べているので、疑問詞 how に対する答えとしては理解されていると思われる。しかし「この本は～」と質問の主語と、この選択肢の主語が違うため、質問を理解できていないと考えられる。
ウ It was big and clean.	正答
エ I will read this book.	library に関連する単語 (read や book) につられて book を含む答えを選んだと思われる。誤答の選択率が最も高いので、how を使った疑問文の理解、さらに be 動詞の過去形の理解ができていない。



- 5層の正答率は90%を超える一方、1、2層で20%弱、3層で約30%の正答率であり、学力により正答率の違いが著しい問題である。
- 類型4 (エ) の選択率は、1～3層に比べ、4層、5層では選択率が急激に下がっており、正答の選択率と反対の傾向を示している。
- 類型1 (ア)、類型2 (イ) の選択率は1～4層の間で大きな変化はなく、一定割合の生徒が誤答を選択している。

○ 指導上の改善ポイント

最も多かった誤答はエの I will read this book.であった。質問文の意味をよく理解できずに、library など、耳に残った単語から read や bookなどを連想してエを選んだ可能性が考えられる。

⇒ (1) 英文を聞きながらある程度の意味が理解できるようにする練習をするとよい。

また、この問いは一問一答形式なので、こうした短い対話を日常的に行うことも効果がある。

⇒ (2) 言語の使用場面に留意しながら生徒と英語による会話活動を積極的に行い続けることで、内容を聞き取り、場面を想像し、適切な応答ができる力が身に付けさせる。

(1) 英語を聞きながら意味を理解する力を身に付けさせる指導

シャドーイングによる音読指導の工夫 (教師と生徒だけでなく、生徒同士のペア活動で行わせることも可能)

ステップ① プロソディ・シャドーイング【音の再現を重視】

テキストを見ないで聞こえてくる英語を声に出して言うシャドーイング

⇒ 音声として聞いたものを意味として置き換える (意味化) する練習が必要。

ステップ② コンテンツ・シャドーイング【意味や内容理解を重視】

常に意味の区切りを意識しながら、英語をある程度のまとまりで捉え、頭の中で意味や内容を理解しながら音読するシャドーイング

ポイント

○シャドーイングの際、CDの音声を追い越させない。

⇒ (追い越すと言うことは英語を聞いていないということ。)

(2) 日頃の積み重ねから「聞く力」や英語で答える力を身に付けさせる指導

教師と生徒が英語で会話する際のやり取りの工夫

(例) 教科書の内容に対する Q&A の場面 (T=教師、S=生徒)

① 完全な文ではなく単語だけで答えてよいこととする。

T: When did he come? --- S: Yesterday.

② 質問の意味が分かって、英語で言えないときは、日本語で答えてもよいこととする。

T: What does Mike usually do on Sunday?

S: …… 音楽を聴きます。(英語の答え方がわからないので、日本語で答える。)

T: That's right. Mike listens to music. (教師が英語で言い直す。)

③ 生徒の間違いを指摘しない。教員が英語で言い直すことで、正しい英語をインプットさせていく。

⇒ 間違いを恐れず、英語で答えようとする雰囲気づくりにつなげる。

※ このようなやりとりを日常的に積み重ねることで、「聞く力」や英語で答える力を身に付けさせていく。

○ 小学校外国語活動における指導

日本語と同様に、英語にも多様な尋ね方、答え方がある。小学校段階から多様な表現に触れることで、自然な英語によるやり取りを浸透させ、「聞いたことがある英語表現」を増やしていく。

(例) 担任とALT (支援員) との英語によるデモンストレーション (授業の導入などの場面で)

・ 未習語も適度に交えつつ、多様な英語を自然な会話の中で聞かせる。 ⇒ **自然な英語のインプット量を増やす。**

※ 内容として、「好きなもの」「家族のこと」「趣味」「今朝の朝食メニュー」「休日何をして過ごすか」など、児童が興味を持って聞きたくなるような内容を毎時間、継続的に聞かせる。(短い時間でよい。)

※ 児童がわかったことを確認し、聞き取れたことを称賛し、さらに繰り返し聞かせることでより効果が高まる。

○ 調 査 問 題

【書くこと】

11 次の(1)と(2)の指示をよく読んで、解答欄にそれぞれ答えを書きなさい。

(1) 下記の質問の答えを1文の英語で書きなさい。

質問：What are you going to do this summer?

○ 調査問題の趣旨・内容

「適切な英文を書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 夏の予定についての質問に対する答えを1文で書く。

【作成の趣旨】 この問題は質問に答える形で、夏の予定について1文で書く問題である。この問題のポイントは will や be going to 等の表現を使って、自分の予定について適切な文が書けるかであり、正確な文法事項を用いると同時に、自由に表現する力が求められる。

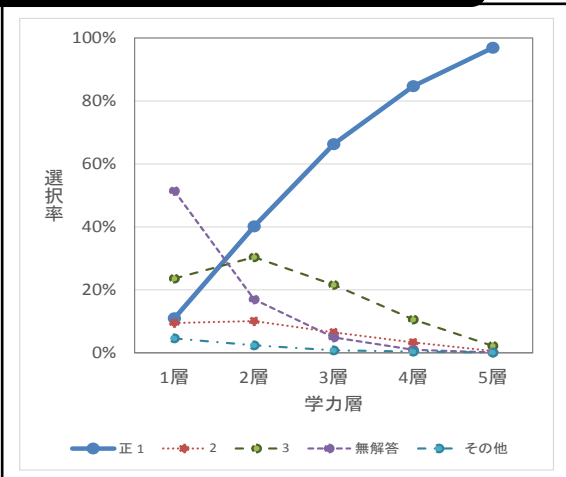
○ 誤 答 分 析

	解答類型	1 ①正答	2 正答条件①② を満たしているが③を満たさない	3 正答条件①を満たしているが②③を満たさない	無解答	その他
出題のねらい						
夏の予定について1文で書くことができる		60.9%	5.9%	17.4%	14.2%	1.6%

- 採点基準：1 will/be going to の表現を使って適切な文が書けている。  
2 will/be going to 以外の表現を使って適切な文が書けている。
- 正答条件 ① 2語以上の1文で書かれている。  
② 正しい文法、つづりで書かれている。  
③ 質問に対する答えとして適切な内容で書かれている。
- 類型3の誤答の中では、次のような誤答が多かった。今回の採点では、誤り1つ〔スペルミス、文法ミス〕は準正答としている。
  - ・ be going to～の表現で be 動詞 (am) が抜けている。→ 過半数を占めていた。
  - ・ 現在形で書いている。
- 採点基準が複数あるなど、正答の中でもいくつかのパターンに分かれる問題である。このうち、採点基準2 (will/be going to 以外の表現を用いている) による正答では、次のような解答が目立った。
  - ・ 現在進行形の「be going to +場所」を使用している。
  - ・ go shopping や go on a trip などの表現については、go to shopping や go to trip などと表現している解答もあったが、正答として扱った。



## ○ G - P 分析



○ 正答率は4層で約85%、5層で約97%となっている。また、「will / be going to」の表現を使い、正答条件をすべて満たしている解答に限ると、4層で約50%、5層で約80%であり、すべてのパターンを併せた正答率以上の違いが出ている。

○ 1層の生徒の無解答率は50%を超えている。英語の質問の意味を理解できなかった生徒も多いと考えられる。

○ 誤答の中では類型3の割合が1～3層で高い。答える（英文を書く）意欲はあるが、基本的な文法事項や単語のつづり、質問の意図を読み取る力に課題があると考えられる。

[定着のために]

○ 書くことについての力を見る問題だが、聞くこと、話すこと、読むことを含めた基礎的・基本的な日常の指導が大切である。

## ○ 指導上の改善ポイント

基礎的・基本的な文法事項や単語のつづり、まとまりのある句の定着を図る活動を通して無解答率の減少と類型3に見られる課題の改善を図る。

### ○ 基礎的・基本的な文法事項やまとまりのある句を定着させるインプット活動の工夫例【帯活動 8回扱い】

① まとまりのある（10文程度）既習の英文を提示する。

- ・ ワークシートのリスト内容は文法事項や自然な流れの会話、レッスンごとのまとまりなどが望ましい。
- ・ 発音が難しいと思われる語句は、全ての生徒が取り組めるよう発音練習を十分に行ってから実施する。

1	What are you going to do tomorrow?	✓	✓	✓	✓	あなたは明日何をしますか。
2	I am going to play tennis with my friends.	✓	✓	✓	✓	私は友達とテニスをするつもりです。
3	...					...

② ペアでインプットした内容の定着を確認

※ 毎回同じペアではなく、組み合わせを変えながら取り組ませるとよい。

1、2回目…ワークシートの英文が音読できるかどうか。

2～4回目…ワークシートの英文を隠し、日本文を見て英語で言えるかどうか。

5回目…ワークシートを見ずに、パートナーが言う日本文を英語で言えるかどうか。

③ ライティングにつなげる穴埋め

・ ワークシートを用意し、個人で取り組ませる。【3～4分間】

1	( ) ( ) you ( ) ( ) ( ) tomorrow?	あなたは明日、何をしますか。
2	I ( ) ( ) ( ) ( ) tennis with my friends.	私は友達とテニスをするつもりです。

6回目…基本的な文法事項等の適語補充 → 確認 → ノート等に練習（英文を見ながら取り組んでもよい。）

7回目…6回目と同様 ただし、最初は英文を見ずに取り組む。

④ 小テスト【確認テスト】

・ 活動のまとめとして確認テストを行う。（③のワークシートと同じ問題を使用する。）

### ○ 正確な表現力を高めることに加え、より自由に自分の考えや気持ちを表現することで書く力をさらに伸ばす。

(例) トピックやタスクを与えてのライティング（毎時間継続して行う短時間のライティング活動）

- ・ 自己（他者）紹介 ・ 日記 ・ 夏休みの予定 ・ 自分の宝物 ・ 将来の夢 ・ 尊敬する人物
- ・ 学校行事の感想 ・ ○○への手紙 ・ 教科書で読んだ物語の感想（習った表現をすぐに使わせて） など

特に3年生では表現の幅が広がるので、これらの活動を通して「正確な表現」を求めつつも、より自由に考えを表現することを促す指導が望ましい。書かせた文章は回収し、見取りを行った上で、作品として掲示するなどしてもよい。